



## 「疾走！三島町の誇り抱いて」

11月19日、第35回ふくしま駅伝に三島町から3名の選手が7町村の連合チームである「希望ふくしま」の一員として出場しました。代表選手は、粘り強い走りたすきで襷をつなぎ古里に元気と勇気、そして感動を与えてくれました。

※詳しくは広報みしま4ページに記載

福島県  
大沼郡  
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

# 受賞おめでとうございます

## 生涯学習表彰受賞者

- 第 68 回 読書感想文福島県コンクール  
**入賞** 三島小2年 川合 史歩
- 第 54 回 福島県児童作文コンクール  
**佳作** 三島小5年 五十嵐悠月  
**佳作** 三島中1年 浅見 凰花
- 第 25 回 MOA 美術館全会津児童作品展  
**会津若松観光ビューロー-理事長賞**  
 三島小4年 大竹真太郎  
**野口英世賞** 三島小5年 布川 琉生
- 県中学校生徒造形作品秀作審査会 (デザインや工芸・平面)  
**特選** 三島中3年 鈴木 璃音
- 県中学校生徒造形作品秀作審査会 (絵や彫刻・平面)  
**特選** 川口高1年 片山 千愛  
**特選** 喜多方 桐桜高1年 佐藤りあん

## 社会を明るくする運動標語コンクール表彰受賞者

- 【三島小学校の部】  
**特選** 三島小6年 二瓶 悠夏  
 「助け合う みんなの笑顔が 増えていく」  
**入選** 三島小6年 熊谷 祐衣  
 「悩み事 しっかり聞くよ 大丈夫」  
 三島小6年 二瓶 健  
 「えがおの輪 それはやさしく れんさする」
- 【三島中学校の部】  
**特選** 三島中2年 大竹 薫子  
 「地域の目 安心安全 ありがとう」  
**入選** 三島中1年 布川 芽依  
 「SOS 見てみぬふりも 共犯に」  
 三島中3年 二瓶剣士朗  
 「ひろげよう やさしさの輪 みんなの笑顔」

## 十七字で奏でよう絆ふれあい事業表彰受賞者

- 【三島小学校の部】  
**最優秀賞**  
 三島小4年 佐久間結人 / 祖父 二瓶 義徳  
 「背くらべ じいちゃんちでんて ぼくのびる」  
 「背比べ 孫に見栄張り 爪先立ち」
- 【三島中学校の部】  
**最優秀賞**  
 三島中1年 石岡健志郎 / 母 石岡 千晶  
 「手伝いを してみても分かる ありがたみ」  
 「「ありがとう」 その一言で 充電完了」
- 優秀賞**  
 三島小1年母 鈴木 絵巳 / 三島小1年 鈴木 悠斗  
 「子ども持ち 荷物が持てず 立ち止まる」  
 「だいじょうぶ ぼくがもつから かえろうよ」  
 三島小2年 鹿狹 湊 / 母 鹿狹 亜貴  
 「ママ見てよ ここにもそこにも ホタルいた」  
 「子の瞳 まばゆく光る ホタルのよう」



# 力作展示やステージを発表多彩に!!

## 三島町文化祭

11月3日、三島町文化祭が開催されました。三島小学校体育館では、生涯学習表彰式が挙行され、小学生4名、中学生2名、高校生2名が表彰されました。また、社会を明るくする運動標語コンクール表彰に続いて、「十七字で奏でよう」の表彰式では、受賞者が作品を読み上げ、大きな拍手を受けていました。

町民センターでは、三島中特設合唱部の演奏で幕を開け、夏休みからたくさん練習を重ねた5曲を心を込めて歌いました。また、町民が日頃の活動の成果を披露し、舞踊やカラオケ、神楽、昔語りのステージを繰り広げ、パルーンパフォーマンスの歌やダンスが会場を沸かせました。作品展示では書や写真、生け花の力作が並び、役場前では、健康体験や消防体験、そして、ゼロカーボンや再生エネルギーの取り組みなどが紹介されました。

町内のおいしいものも出展もあり、来場者が秋の味覚に舌鼓を打ったほか、地場産品などを買い求める方で賑わいを見せていました。



## 三島中桐陽祭「進取果敢」

### ～くじけないで突き進め～ (10月28日)

オープニングダンス後すぐに、じゃんけん大会が開かれ、じゃんけん大会の優勝特典は、「開会宣言を述べる権利」でたいへんおもしろい演出でした。その後、英語弁論大会出場者のスピーチがあり、見事でした。

次に各学年の総合学習の発表があり、1年生は「どうする伸悟！」として、三島町のよさについての発表でした。2年生は「未来予想図Ⅲ」で、職業体験から11年後の未来について発表し、いずれも調査・体験学習に基づきながらもユーモアを交えてのすばらしい発表でした。3年生は平和学習で沖縄のことを調べたことを劇「マブニのアンマー」を発表し、反戦や平和について訴えかけました。午前の部の最後は、特設合唱部の演奏で締めくくりました。

午後は、有志の発表で2年生の歌、1年生の「異種格闘技戦」、2年生のダンスの発表があり、個性が発揮されていました。その後「三島中の主張」として一人一人が自分の好きなことや将来の夢、今考えていることなどを思い思いに発表しました。

エンディングセレモニーでは、各部門長からの挨拶のあとテーマソングを歌い、メイキング映像を上映して締めくくりました。

これまで協力して準備や練習をしてきた成果を、十分に発揮することができました。自分たちで考え、作り上げた桐陽祭、大成功!!!

### 自分たちで創り上げた三島小まつり(11月3日)

6年生による「ふくしまゼロカーボンへの挑戦」の発表から始まり、1年生による「ちょっとまって!大きなかぶ」、2年生による「みんなのお手紙」、3・4年生による「すごいぞ三島町!～西方地区と滝谷地区を探検して～」、5・6年生による「20年後のわたしたちと三島町～Our Future Story～」が発表されました。最後には全校合唱「君を乗せて」が発表されました。

児童たちは日々の学習の成果を一生懸命に披露し、訪れた保護者や町民の方々からは大きな拍手や歓声が会場に響きわたりました。

今年の三島小まつりは、発表内容や台詞、歌う曲目や踊る曲目は、子どもたちの話し合いで決められた学年が多かったようです。今回も、いろいろな方に「共育」していただき、ありがとうございました。



▲三島小学校の皆さん



▲5・6年生による発表



▲三年生の発表の様子



▲エンディングセレモニーの様子



▲有志発表の様子



▲1年生による発表



▲2年生による発表



▲3・4年生による発表

## 古里背負い絆のタスキ ～力の限り駆け抜ける～



### 「希望ふくしま」チーム大健闘!

### 第35回ふくしま駅伝

第35回ふくしま駅伝は11月19日、白河市と福島市の16区間、96・3kmのコースで練り広げられ、三島町は、7町村の(三島、金山、松枝岐、湯川、昭和、川内、葛尾)の連合チームである「希望ふくしま」の一員として参加しました。11回目の出場となる「希望ふくしま」は、前回より順位を5つ上げ、過去最高順位の30位と大躍進しました。

町からは、3名の選手が出場し、7区の三島中2年鈴木康生選手は、かつて箱根を走った名ランナーの三島中佐瀬先生の支えで実力を伸ばし、期待どおりの力



▲鈴木康生選手

14区の監督兼選手の北館亮選手は、ベテランらしい着実な走りです。チームに貢献し、来年のさらなる飛躍を誓っていました。



▲北館亮選手

強い走りを見せました。11区の町教育委員会AL Tのカナダから来日したゴトウ・リナ選手は、強い向かい風のなか粘り強い走りをつなぎました。「多くの応援が力になり、町民の方は優しく、大好きな町」とほほ笑んでいました。



▲ゴトウ・リナ選手

選手の皆さんは、これまで学業や仕事の合間をぬって、自主練習や夏合宿、タイムトライアルや試走を積み重ねてきた結果、すばらしい成果につながりました。そして、「希望ふくしま」の目的である、古里の誇りを胸に力強い走りをつなぎ、町民に元気、勇気、感動を与えてくれました。



「自分の命は自分で守る」をテーマの西方防災訓練（10月29日） 本名 与四郎さん（西方）

午前9時より、森の校舎カタクリの校庭で西方地区の「防災訓練」が行われました。東日本大震災で、多くの高齢者やその支援者が犠牲になったこともあり、実施されました。各市町村では、個別避難計画の作成が努力義務になり、未作成だった三島町では今年度より順次作成されます。地区住民に、防災無線や消防車のサイレンを鳴らしながら、防災訓練の実施を知らせ、リュックサックを背負った地区住民の約40名が森の校舎カタクリに集合しました。まず初めに、消防署員の丁寧な説明により消火栓の使用の実践から始まりました。消火栓からホースを伸ばし、放水の圧力を体感しながら取り組むことができました。その後、消火器の使用の説明を受け、実際に目標物に向かって、鎮火させる訓練を行いました。後半は、体育館において「自主防災組織」について、県災害対策課の馬場大輔さんの講演がありました。「自助」「共助」「公助」の3つの項目がリンクすることの大切さと自主防災組織に期待されることを分かりやすく説明いただきました。特に、平常時の防災活動として、まち歩きを実施することにより、地域の災害危険を把握し、地区防災マップの作成や地区防災計画の策定が肝要であることを力説されました。最後に、阪神淡路大震災を例示し、救助された方の97%が隣近所の方々だったと言うことでした。隣近所の声かけやふれあいの大切さを痛感しました。また、亡くなられた方の大半は、倒壊したことによる圧死だったことを受け、洋服タンスなどの固定が大切であることも改めて、体得できました。



「災害は 幸せな頃に やってくる」  
「お茶飲みも 自分を守る 助け合い」

早戸地区の伝統行事「虫供養」（11月10日）

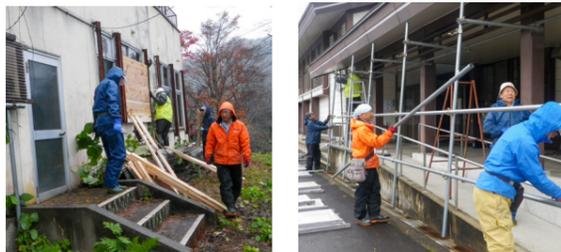
橋本 光五郎さん（早戸）

早戸地区の伝統行事である「虫供養」が開催されました。今年も三島小学校の3・4年生14名が「伝統行事体験」として参加してくださいました。今までは佐久間弥一さんの鉦の先導で集落下の生活改善センターから虫供養塔まで歩いていましたが、今年は天気が雨模様ということもあり先導役が世代交代。佐久間一男さんの鉦の先導でお参りをしました。心配したほど雨が強くならず、無事に「虫供養」を終えることができました。「虫供養」が終わると季節は秋から冬へ。冬支度を急がなければならない、と教えてくれる伝統行事でもあります。



大林管理棟とふるさとセンターを豪雪から守る冬囲い作業（11月11日） 本名 与四郎さん（西方）

午前8時より大林公園管理棟の冬囲いとカタクリ・さくらまつりに使用された案内図看板や鳴ヶ城跡の標識板などの撤去作業が行われました。気温が一段と下がり、冷たい雨が降り注ぐ肌寒い中での作業となりました。西方区長の五ノ井隆一さんを中心に、地区委員の皆さんが参加し、作業がスムーズに行われました。落とし板の劣化がひどく暗い印象を与えていましたが、町役場より新しい落とし板が提供され外観が明るくなりました。その後、ふるさとセンターに移動し、冬囲いが開始されました。毎年行われているものの、バランスが不均衡になるなど時間のかかる作業となりました。冬囲い作業が終了したのは、お昼の12時を過ぎていましたが、役員の皆さんの、最後まで黙々と作業する姿が印象的でした。二十四節気の一つである「立冬」も過ぎて、朝晩の冷え込みがさらに増し、西方地区の山里でも、いつ雪が降りはじめもおかしくない季節となりました。まもなく雪に閉ざされる奥会津の冬に備えた恒例の作業となりました。



「春を待つカタクリとさくら 雪に耐え 人も花木も 優しくなる」  
「冬囲い 容易でないが 力合わせ 作業しながら 絆深まる」

古街道を巡る旅  
沼田街道トレッキング

11月4日、沼田街道トレッキング実行委員会主催による沼田街道トレッキングが開催されました。江戸時代に会津若松と群馬県の沼田を結ぶ、交易路としての役割を担った古街道「沼田街道」を利用して、JR滝谷駅を出発し、巖谷城や丸山城といった山城址などを巡りながらJR会津宮下駅まで歩くツアーです。

スタッフ含めて計32名の方が参加されました。約10kmに及ぶ道のりの中で各々歴史を感じながらトレッキングを楽しみました。



▲トレッキングルートから臨む滝谷橋梁

色づいた葉の舞う中  
美女峠トレッキング

11月5日、かしゃ猫クラブ主催による美女峠往復、約8kmのトレッキングを開催しました。町内外の参加者18名とスタッフ11名が参加しました。

天気は快晴。紅葉は真っ盛りを過ぎ、時折葉っぱがひらひらと舞う中、会話をしながらゆっくり歩きました。峠での昼食時には、会員による「とうげのちゃや」のコーヒーとお菓子が振る舞われたほか、高姫伝説の紙芝居が上演されました。



▲美女峠トレッキングに参加された皆様

三島町教育委員会より

故 佐藤村夫氏に「正六位」の叙位が贈られました

今年8月に亡くなられた故佐藤村夫氏（宮下）に、生前の教育に対する功績として、内閣総理大臣より「正六位」の叙位が贈られ、矢澤町長からご遺族である大木修様に伝達され、山口教育長が同席しました。

故佐藤村夫氏は、宮下小学校長を定年退職後、教職の経験を生かし、長きにわたり教育委員や教育委員長として、町教育行政の充実・発展のために貢献されました。



▲左から矢澤町長、大木修さん、山口教育長

# 第13回 『撮』っておきのみしま町 フォトコンテスト

「第13回『撮』っておきのみしま町フォトコンテスト」の審査が行われ、県内外から応募された32名58点の作品の中から三島町長賞など9点が決定しました。

入賞作品と応募作品は、交流センター山びこにおいて令和5年12月2日④から令和6年2月22日⑤の期間で展示されています。皆さまお誘い合わせのうえ、ご来場ください。

④交流センター山びこ ☎(52) 2165



《三島町長賞》  
「足跡」  
大島 市郎さん（会津若松市）



《三島町教育委員会教育長賞》  
「第三鉄橋雪景色」  
大峽 秀明さん（山形県）



《三島町写真クラブ》  
「写団・道奥21」会長賞  
「今年もおいしいご飯食べれるね」  
二瓶 朋子さん（三島町）



《三島町文化協会賞》  
「美坂高原の朝」  
鈴木 璃音さん（三島町中3）



《福島民報社賞》  
「三島の夜に星は舞う」  
上野 貴道さん（湯川村）



《福島民友新聞社賞》  
「行き交う列車」  
鈴木 孝二さん（会津若松市）



《三島町交流センター山びこ賞》  
「雪桜」  
田上 敏明さん（三島町）



《三島町交流センター山びこ賞》  
「晩秋の只見線第一橋梁を走る」  
小野 孝雄さん（伊達市）



《三島町交流センター山びこ賞》  
「カメムシも見なくなる風景」  
布川 芽依さん（三島町中1）

## 地域おこし協力隊

今年も冬がやってきました

西田 星弥

### 活動誌

地域おこし協力隊の西田です。2023年も気が付けば12月になってしまいました。この記事を書いている時点では寒さは大したことありませんが、この記事が皆様の目に入るころにはかなりの冷え込みになっているでしょうね。昨年の7月から三島に来て2度目の冬を迎えています。今年の雪はどのくらい降るのだろうか、と少し不安になっています。というのも昨年は例年に比べかなり降雪量が少なかったようなので、真の雪国を未だに体感できていないのでどうなるのでしょうか。

話は変わりますが、今年の年末年始期間は北海道新幹線の一部が全席指定席となるようです。地元が大抵なので帰省の際には新幹線を利用しますが、繁忙期の北海道新幹線は桁違いに

混んでいるので移動に関して良い思い出はないのが正直なところ。東京にも住んでいながら人混みや乗車率の高い電車が嫌いなタイプなので、直近5年間で混雑期に新幹線は利用していません。昔所属していた会社は長期休暇の日程をずらして取得できる仕組みだったので、帰省や旅行にはもってこいの仕組みだったなとふと思いつきました。理由は知りませんが、全席指定席になることで混雑が多少解消されることを願います。

今回の写真はまたしても種子島に行ってきたので、その際の写真を載せます。



## 三島のものづくりに関する30編の記録

### 「生活工芸技術伝承記録集」発行



編み組細工を中心とした生活工芸品の作成技術について記録した本が完成しました。これは生活工芸アカデミー1期生の井口恵さんが在籍中に町内の皆さまから教えていただいたものづくりに関することをまとめた記録集です。

第1章では“材料採取”、第2章では“制作工程”を取り上げており、多数の事柄について写真を交えて掲載しています。三島町で行われているたくさんのものづくりの中の一つの事例としてご覧ください。

今と未来において、本書が三島のものづくりを支える皆さまの一助になることを願います。

工人の館で閲覧が可能のほか、町民のご希望の方へ無料で配布いたしますので、生活工芸館までお問い合わせください。

#### 【目次】

- 第1章 材料採取・・・1. 山ブドウ蔓、2. マタタビ蔓、3. 箆縁、4. ヒロロ、5. モワダ、6. アカソ、7. クルミ皮、8. ガマ、9. クゴ、10. トウモロコシ、11. ヤマスゲ、12. クズ、13. 野カラムシ、14. ミョウガ
- 第2章 制作工程・・・1. 山ブドウ籠、2. 山ブドウ財布、3. マタタビヒゴ、4. マタタビ米研ぎ箆、5. マタタビ四ツ目箆、6. マタタビそば箆、7. ヒロロ縄緬い、8. ヒロロ靴、9. 藁準備、10. 雨蓑、11. 筵、12. 雪踏み俵、13. ガマ草履、14. 木箆、15. かんじき、16. 猿袴

④三島町生活工芸館 ☎(48) 5502

工芸館だより ③1 〽ものづくりの伝承〽

## セルフメディケーション

### セルフメディケーションで元気な毎日を!

平均寿命が長くなり、生活習慣病が問題になっている現代において、日々をいかに健康に生きるかが問われています。世界保健機関（WHO）の定義によるセルフメディケーションとは「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」です。

#### <セルフメディケーションのメリット>

##### 1 健康管理を習慣化できる

家庭での血圧や体重を継続的に測定する、年に1回健康診断を受けて結果をもとにかかりつけ医へ相談するなど、普段からの健康管理が大事です。また、普段から適度な運動と栄養バランスのよい食事、十分な睡眠時間を確保し、もともと備わっている自然治癒力を高めましょう。

##### 2 OTC医薬品（市販薬）の使用で、受診の時間が省け医療費の増加を防ぐ

かぜ気味だ、頭が痛い、胃腸の調子が悪いなど、日頃よく経験する症状はOTC医薬品を上手に利用し、軽度な体の不調は自分で手当てすることができます。

**注意!** 自分の不十分な知識によるセルフメディケーションは、悪い結果を招くことも。家族や自分の体質や状態、症状に合った薬を適切に使用するために、かかりつけの薬剤師をもちアドバイスを受けましょう。

#### セルフメディケーション税制を活用しよう!

OTC医薬品（市販薬）を購入したときのレシートや医療費の領収書は保管しておきましょう。1年間に指定された市販薬の購入金額の合計が12,000円を超えていたら、所得控除が受けられます。（※医療費控除制度との併用は不可）詳しくは役場町民課までお問い合わせください。



## 図書のご案内

### 町民センターゆめぼけっと

- 利用時間  
月～金 午前9時～午後9時  
土・日・祝 午前9時～午後5時
- お休み  
年末年始
- 公民館 ☎ (48) 5599

#### ●今月のおすすめ

##### 賢治と「星」を見る

渡部潤一 著

少年、宮沢賢治は夜空を見上げ、何を思ったのだろうか？天文学者も舌を巻くその正確な天文知識は作品にどう映しだされたのか？

天文学の楽しさを一般の人びとにわかりやすく伝え続けてきた会津若松市出身の天文学者が、賢治が作品に描き出した天体に私たちが招待する。



#### ●図書の紹介



魔法の文芸  
川柳を学ぶ

江畑哲男 著



みらいめがね

萩上チキ 著



不可能を可能にする  
大谷翔平 120の思考

大谷翔平 著

## 町史編さん室だより

第95回

### 明治期の田畑 米の輸入地であった現三島町域

掲載した表は明治三十三年（一九〇〇）に福島県が県全域の農業地を調べたもののうち、現三島町域分をわかりやすくまとめたものです。特徴的なのはどの地区も田より畑が多く、また自家消費だけなのか米を売った収穫金が記載されていないことです。当時の他の文書に目を通して米を売ったという記述はなく、逆に買ったという記述が散見されます。

例えば明治二十年代に岩盤を掘り抜き水路を通じた滝谷の堰について書かれた石碑には、堰ができたことにより上滝谷が良田化する前は「田地乏シク常ニ飯米不足シ毎年他ヨリ之ヲ購入スルコト多シ大ナリキ」と刻まれていますし、

明治四十三年（一九一〇）には米価暴落により農家の経済状況がどうなっているかという問い合わせに対し西川村外二ヶ村組合（後の宮下村）から大沼郡役所に宛てた報告には、「米価ノ暴落ハ地方米穀輸入地トシテ大ニ経済ノ円滑ヲ助ケ」とあり、米穀輸入地であるため米価の暴落は経済の円滑を

助けるものと歓迎しているような記述が見られます。この傾向は昭和に入っても変わらぬ傾向にあり、昭和十年（一九三五）の「郷倉設置推薦調書」を読むと、宮下・滝谷・大谷等は米を自給だけでまか

なえず、河沼郡その他より米を移入していることがわかります。昭和初期にまとめられた宮下小学校『郷土誌』には「西川村外二ヶ村組合八土地広キ割合ニ耕地ニ乏シク特ニ水田八十余町ニ過ギズ西川村大

字川井原谷村大字滝谷ヲ除ク外ハ各字共ニ米ノ産額高ハ僅少ニシテ其ノ消費額ノ大部分ハ移入ヲ仰ギ各種ノ事業ニヨリテ得タル大半ハ皆米価トシテ奪ヒ去ラレ」とあり、各事業の収入が米を購入するこ

とで奪い去られると、強い表記で現況を述べています。※引用文のルビは筆者によるものです。

（町史編さん室）

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。  
☎(52)2165

明治33年 各大字別田畑反別

大字	田反別		畑反別
	此収穫米	此収穫金	此収穫金
	17町6反6畝6歩		49町1反5畝15歩
川井	211石9斗4升4合 但平均反当り1石2斗	米作以外ノモノナシ	903円46銭9厘 但平均反当り1円83銭8厘
	10町7反1畝19歩		50町9反3畝5歩
大登	112石5斗2升1合5勺 但平均反当り1石5升	米作以外ノモノナシ	1009円97銭4厘 但平均反当り1円98銭3厘
	2町2反2畝5歩		32町1反8畝7歩
桑原	22石2斗5合 但平均反当10円 [1石カ]		991円58銭9厘 但平均反当り4円20銭
	3町3反7畝1歩		63町5反6畝9歩
宮下	28石6斗4升7合 但平均反当8斗5升	米作以外ノモノナシ	953円44銭5厘 但平均反当り1円50銭
	7町8反8畝29歩		83町3反7畝24歩
大谷	71石007合 但平均反当9斗	米作以外ノモノナシ	1500円80銭4厘 但平均反当り1円80銭
	4町7反23歩		36町5反2畝12歩
浅岐	37石6斗6升1合 但平均反当8斗	米作以外ノモノナシ	609円78銭 但平均反当り1円67銭
	8町1反3畝5歩		28町8反7畝18歩
間方	56石9斗2升1合6勺6才 但平均反当7斗	(同上)	433円14銭 但平均反当り1円50銭
	8町5反2畝25歩7合2勺		61町5反7畝28歩
松原	81石8斗1升5合7勺 但平均反当9斗6升		1183円1銭 但平均反当り1円80銭
	12町7反7畝20歩		34町2反5畝9歩
滝谷	140石5斗4升3合 但平均反当1石1斗		678円20銭9厘 但平均反当り1円98銭
	18町7反8畝16歩		68町2反3畝12歩
西方	262石9斗9升4合6勺 但平均反当1石4斗	ナシ	3753円5銭1厘 但平均反当り5円50銭
	5町8反7畝11歩		95町5畝23歩
名入	79石2斗8升 但平均反当り1石3斗5升	ナシ	5038円18銭 但平均反当り5円30銭
	14町3反8畝25歩		63町9反8畝4歩
大石田	160石5升9合 但平均反当1石1斗1升余		3199円 但平均反当り5円
	1町4畝13歩		49町9反8畝11歩
早戸	10石4斗4升3合3勺 但平均反当1石	ナシ	1999円34銭7厘 但平均反当り4円

『福島県農業地取調』（明治大正期福島県庁文書）より [ ]は推測  
※川井・大登・桑原・浅岐・間方・松原のみ畑の収穫金は3ヶ年平均との記載あり。



三島町のみなさま、こんにちは。今回はこれまでもお伝えしてきました、環境省が展開している「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」、デコ活について新たな取り組みなどをご紹介しますと思います。

デコ活は二酸化炭素(CO2)を減らす脱炭素(Decarbonization)と環境に良いエコ(Eco)を掛け合わせた愛称となっていて、この言葉を広めるためにロゴマークを作成したり、標語の募集をしたり、と環境省では色々な活動をしています。また、デコ活アクションとして、デ(電気も省エネ断熱住宅)コ(こだわる楽しさエコグッズ)カ(感謝の心食べ残しゼロ)ツ(つながるオフィステレワーク)とそれぞれの文字から連想できるアクションも紹介しています。

こうした広がりを見せているデコ活ですが、今回はその中でも地域や企業が行っているごみを減らす取り組みの一部をお伝えしていきたいと思います。

**〇服の交換会 in むなかた【福岡県宗像市】**  
<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/detail/region/328.html>

福岡県宗像市ではリユースの啓発やごみを減らすために「服の交換会」を定期的に開催しているそうです。「服の交換会」は参加者がそれぞれ、不要になった衣服を持ち込んで他の参加者の衣服と交換するもので、自分が着なくなった服を別の人が利用してくれることでごみの削減につながり、服を長く着続けるサステナブルファッションへの関心にもつながります。個人間で服を交換することはなかなか難しいので、こうしたイベントを開催してくれると気軽に参加できますね。

**〇くず米からできたスイーツで食品ロス削減【カムコミュニケーションズ株式会社】**  
<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/detail/service/270.html>

こちらは米粉を使用したお菓子を作っている会社で、使用している米粉のほとんどはくず米が使用されています。くず米は精米中に欠けてしまう等して味は変わらないものの商品として売り物にならず、

廃棄・処分されてしまうものです。廃棄されるはずだったものを利用することでごみを減らすことができ、脱炭素社会に貢献しているとのこと。



(くず米を使用したスイーツ :<https://comeru.jp/>)

**〇古紙から生まれた袋留めクリップ「Bō」【株式会社スガイワールド】**  
<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/detail/service/248.html>

こちらの会社では新聞・雑誌・段ボールなどを原料とした古紙を使用して、開封した袋を閉じる袋留めクリップを開発されたそうです。見た目は細い紙の棒なのですが、食品の袋等の口をしっかりと密封できるとのこと。従来のプラスチック製品に比べて製造時のCO2排出量を65%削減することができるそうです。

今回はごみを減らす、というアクションに注目して三つの取組みをご紹介いたしました。まだまだ使えるものを捨てずに長く使用すること、捨てるはずだったものを新たな使い方で再生・活用していくことなど、少し考え方をえることで環境への負荷を減らす行動につながるのだと知ることができました。こうした商品やイベント等を利用・参加することもデコ活の一部だと思いますので、もし身の回りで見かけた際にはぜひ注目してみてください。

<筆者コメント(常盤達彦)>  
福島県のごみの排出量は全国ワースト2位です。特に一般の家庭から出る生活系ごみが多いそうなので、私たち一人一人がごみを減らす行動しなくてははいけませんね。(国環研サイトより :<https://www.nies.go.jp/fukushima/magazine/research/202210.html>)

**〇国立環境研究所福島地域協働研究拠点**  
地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

11月3日の『三島町文化祭』では、本誌『環境研だより』でおなじみの「国立環境研究所 福島地域協働研究拠点」様と共に筆者もゼロカーボンへの取り組みをPRさせていただきました。

### 1 国立環境研究所 福島地域協働研究拠点について

2011年3月の東日本大震災後から国や地方自治体と連携・協働して、様々な被災地支援の災害環境研究を行ってきた「国立環境研究所 福島地域協働研究拠点」。三島町とは、2017年8月より連携・協力に関する基本協定を締結以降、町の環境保全に係る取り組みや再生可能エネルギーの導入検討、三島町ゼロカーボンビジョンの策定等にて支援いただいています。そんな三島町ともなじみ深い国立環境研究所様に、今回の文化祭では、いろんな環境関連イベントで大好評の『3Dふくしま』を特別に展示していただきました。



写真：「国立環境研究所」出展ブース

### 2 ここがスゴイ!「3Dふくしま」!!



写真：(左) 矢澤町長に「3Dふくしま」の説明の様子

『3Dふくしま』とは、福島県全域がリアルに再現された立体的な縮尺図の上に、国立環境研究所様の研究成果をはじめ福島県や国のデータを映像で投影するものです。

例えば、人口分布のデータを立体地図の上に投影することで、平野や盆地に人口が集中している様子が分かり、さらには過去と現在のデータを推移させることで震災後の避難指示区域の人口の状況まで分かります。

その他にも温暖化によるリンゴとみかんの栽培適地の变化、野生動物や放射線量の分布、再生可能エネルギーの適地など、地形と様々なデータが重なることで、私たちの住む福島をより深く知ることができます。

ちなみに、三春町の「コミュニティ福島」では、今回の文化祭で展示された物よりもさらに大きなスケールの『3Dふくしま』で展示中とのことですので、興味のある方はそちらもぜひご覧ください。

### 3 「三島町住宅太陽光発電システム設置費補助金」もPR

さて、かくいう筆者は、その隣で今年度から新設の「三島町住宅太陽光発電システム設置費補助金」のPRをさせていただきました。当補助金は、発電設備1kWあたり6万円(最大4kWまで)の補助金を交付するもので、福島県の「住宅太陽光発電補助」との併用が可能となっています。当日は、導入を検討されている方を含め5件程の相談を受け、貴重な意見交換もできてとても良かったです。

ちなみに、皆さまから一番多かったご質問が積雪による冬季の発電量です。実は、屋根の向きや勾配等の条件によっては、パネルから雪が自然と落ち、冬でも思いのほか発電することもあります。例えば、若者単身用住宅(9.9kW)の場合、屋根に積雪の多い1月～3月で約350kWh/月(過去4年平均)の発電量があります。一番発電量の多い6月に比べ1/3～1/4程度の発電量とはなりますが、日照時間を考えるとそこまで悪い数値ではないと感じます。

その他にも補助金額や交付条件に関するご意見やご要望もいただいておりますので、それらの内容を踏まえて、現制度の課題などを改めて整理していきたいと思っております。

【地域おこし協力隊 やまもとたかはる 山本敬晴】

## 愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ「三島通信」で健康教室を放送中です。

12月のテーマは奥会津在宅医療センターより「冬の健康管理について」です。ぜひご覧ください。



☎福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321

## 町からお知らせ

## ご寄附ありがとうございました(10月分)

## ふるさと納税

丹野光明様(千葉県)  
五十嵐賢治様(東京都)  
井上隼汰様(宮城県)  
小松義弘様(埼玉県)  
五十嵐誠幸様(埼玉県)  
酒井清子様(埼玉県)  
小林孝子様(会津坂下町)  
永綱春奈様(西郷村)  
武井節子様(会津若松市)

寄附件数 29件 計 677,000円

## 12月分納税のご案内

【納期限 12月25日(月)】

- ▼ 固定資産税 (第3期)
  - ▼ 国民健康保険税 (第5期)
  - ▼ 介護保険料 (普通徴収) (第5期)
  - ▼ 後期高齢者保険料(普通徴収) (第5期)
- 忘れずに納付してください。

☎町民課 町民係 ☎ (48) 5555

## 町の人口と世帯(11月1日現在)

人口	1,381	増減数	1	出生	0
男	697		-1	死亡	1
女	684		2	転入	5
世帯	689		0	転出	3

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

## 社会福祉協議会より

## 大石田友遊サロン

12月4日(月)  
午前10時から  
大石田集会所

## 桧原はつらつクラブ

12月5日(火)  
午前10時から  
桧原集会所

## ひまわりサロン

12月11日(月)  
午前10時から  
町民センター

## 大登サロン

12月11日(月)  
午後1時30分から  
大登生活改善センター

## 川井友愛サロン

12月12日(火)  
午前10時から  
川井集会所

## サロンなごみ

12月14日(木)  
午前10時から  
西方ふるさとセンター

高清水・小山  
いきいきサロン

12月15日(金)  
午前10時から  
高清水集会所

## 間方いきいきクラブ

12月18日(月)  
午前10時から  
間方集会所

## 滝谷和楽塾

12月19日(火)  
午前10時から  
滝谷集会所

## サロンないり

12月25日(月)  
午前10時から  
名入集会所

## ほがらかサロン

12月25日(月)  
午前10時から  
森の校舎カタクリ



## ◆ 心配ごと相談(人権相談) ◆

12月8日(金) 福祉センター  
午前9時30分から午前11時30分まで

町社会福祉協議会へのご寄附  
(一般のご寄付)

会津ヤクルト販売(株)

☎社会福祉協議会 ☎ (52) 3344

## 会津坂下警察署からのお知らせ

## 年末年始における事件事故防止活動

年末年始は人の動きが活発になります。福島県警察では、令和5年12月10日(日)から令和6年1月7日(日)の期間中、住民の皆様や関係機関・団体と一体となった事件事故防止活動を展開します。

## &lt;事件・事故を防止するために&gt;

- なりすまし詐欺の被害に遭わないために、自宅の電話は常に留守番電話に設定し、相手や要件を確認しましょう。
- 夕暮れや夜間における交通事故を防止するため、ドライバーは前照灯を、歩行者は夜光反射材を効果的に活用しましょう。
- 飲酒運転の根絶のために「飲んだら乗るな」の基本を守りましょう。

☎会津坂下警察署警務係 ☎ 0242 (83) 3451

## 消防署からのお知らせ

## 年末年始特別警戒 12月15日~1月15日

年末年始は、あわただしさから火の取り扱いがおろそかになりがちです。お出かけ前やお休み前には火の元に十分注意し、火災のない年末年始を過ごしましょう。

また、除雪作業時の事故も起きやすい時期です。除雪をする際は、家族や近所にその旨を伝えてから作業を行ってください。

万が一のことがあった場合にすぐ連絡できるよう、携帯電話を持って作業しましょう。

## &lt;消防水利の除雪のご協力ありがとうございます&gt;

町民の皆様には、日頃より自宅近くの消火栓や防火水槽の除雪にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

消火栓や防火水槽は、火災時に重要な水源となりますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

また、付近への雪寄せや盛り上げ、駐車等は行わないようご協力ください。

## &lt;災害情報案内サービスの電話番号が変更となります&gt;

【変更前】0242-25-1133 → 【変更後】0242-93-6119

変更日は12月15日の午後を予定しております。切り替え完了時には、会津若松消防本部ホームページへ掲載しますのでご確認ください。

☎会津坂下消防署三島出張所電話番号 ☎ (52) 3032

## 宮下病院リハビリ室からのお知らせ

愛ばんしょ外来 担当看護師

皆さん、ヒートショックをご存知ですか? ヒートショックとは急激な温度変化により体が受ける影響のことです。暖かい居間から、寒いトイレや脱衣場、浴室に移動することで起こり、大きな気温の変化で血圧が急激に上下し、心臓や血管に負担がかかります。症状はめまい、吐き気、頭痛で、重症になると失神や意識障害をおこします。

対策としては、温度差をなくすことが挙げられます。脱衣場を暖房で暖めたり、入浴前かけ湯をして体を温めてから湯船に入りましょう。

☎福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321

## ポリテクセンターからのお知らせ

## 2月開講の職業訓練の案内

【コース】機械 CAD・NCコース  
電気設備技術コース

【募集定員】各3名

【訓練期間】令和6年2月1日~8月30日まで

【対象者】公共職業安定所に求職登録されている方で職業訓練の受講が望ましいと判断された方。

【受講料】無料

【募集期間】令和5年12月7日~令和6年1月12日

【申込方法】最寄のハローワーク窓口へ相談のうえ、「受講申込書」(写真(縦40mm×30mm)1枚貼付)を希望される訓練コースの応募期日までにハローワークへ提出してください。

【選考日】令和6年1月16日

## &lt;施設見学会&gt;

【開催日時】令和5年12月中毎週(月)(水)  
※ 各日 13:30~15:45

【目的】新たな技能取得のための職業訓練について理解していただくことを目的としています。

☎ポリテクセンター会津 訓練課 ☎ 0242-(26)-0520

新しい暮らしのヒントを見つけに！  
**奥会津三島町移住体験ツアー**  
**2023 冬 参加者募集中！**

令和6年1月14日(日)～16日(火)

三島町の暮らしや文化、魅力を感じていただく移住体験ツアーを実施いたします。三島町への移住をお考えの方、田舎暮らしにご興味のある方は、ぜひご参加ください。

**参加費** 15,000円

**募集人数** 5名 (最少催行人数1名)

**募集期間** 12月15日(金)まで

主なツアー内容

- 空き家見学
- 郷土料理体験 (そば打ち、こづゆ、お団子づくり等)
- 編み組細工体験
- 伝統行事「三島のサイノカミ」参加
- 雪に触れる農業体験 など

お問合せ・お申込み先

三島町役場 地域政策課 ☎ 0241 (48) 5533



詳しくはQRコードから  
 町HPをご覧ください➡



町長日記 「持続可能な地域の構築は②」

No.95

只見川電源流域振興協議会の構成町村であります、奥会津7町村の文化施設が連携し、奥会津の縄文展を開催しました。7町村の施設に、約1万3千人の来場がありました。7町村の出土品にはそれぞれ多様性があったため、多くの方が訪れたのではないかと考えます。

もたらしめました。しかし今では、日本のIT関係や個人所得などが先進国と比較して低くなっています。

縄文文化は日本の基層文化であると言われております。縄文文化は狩猟採集文化であり、森や木の生活の中で自給自足や広域的な交流を通して豊かな生活をしていたのではないかと推察できます。

日本のGDPはドイツにも抜かれ、世界4位になるであろうと言われております。夢よ再びという経済政策である拡大・成長志向の視点で展開したならば、賃金の格差がますます拡大し住民が分断され、世界の格差が起り、富む者と富まざる者が分断され非常に不安定な時代に突入すると考えます。

日本文化の基層が縄文時代から継承されているならば、この基層文化を現代にどの様に生かしていくのかを、地域だけでなく日本全体で考えなければなりません。

少子化対策で人口は増えるとはとても思いません。また減税や増税で日本の立つ位置が変わることもありません。思い切った日本の構造の転換以外にはないのではないかと考えます。そうしないと地方は益々人口減少がおこり、対策できない状態になることを危惧しています。

日本の高度経済成長期は、人口や経済の拡大による所得の上昇により生活に豊かさを

三島町長 矢澤 源成

発行 三島町 編集 三島町役場 地域政策課

〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字宮下350 ☎ 0241 (48) 5533

ホームページ http://www.town.mishima.fukushima.jp

印刷 三洋印刷株式会社